

総務文教委員会

平成29年度

行政視察報告

平成29年10月11・12日

視察先・視察項目

①10/11 大阪府東大阪市

・防災学習について

②10/12 福井県敦賀市

・学力向上の取り組みについて



東大阪防災学習センター



敦賀市役所

平成29年度 総務文教委員会行政視察報告書

江津市議会総務文教委員会
委員長 田中利徳

【日程】 平成29年10月11日(水)～10月12日(木)

【視察先・視察項目】

- 1、大阪府東大阪市・・・「防災学習について」
- 2、福井県敦賀市・・・「学力向上の取り組みについて」

【視察のねらい】

- 1、大阪府東大阪市・・・「防災学習について」

◎消防局防災学習センター

関西地方では、阪神大震災の教訓を生かし、今後予想される南海トラフ巨大地震などの各種災害に対応するための防災学習センターを設置している。そこで施設見学を中心に防災学習について視察することとした。

- 2、福井県敦賀市・・・「学力向上の取り組みについて」

◎敦賀市立栗野小学校 ◎敦賀市教育委員会

福井県は「全国学力・学習状況調査」において、常に全国でトップクラスの成績を残している。その中において敦賀市は「宿題を全国平均の3倍出す」と言われるように、学校の授業は基より家庭学習の取り組みにも力を入れて福井県内においても上位の成績を収めている。そこで、「全国学力・学習状況調査」において低迷の続く江津市の義務教育の学力向上のための具体的方策の参考にするため敦賀市の具体的取り組みを視察することとした。

【視察報告】

- 1、大阪府東大阪市・・・「防災学習について」

◎消防局防災学習センター

東大阪市は、大阪府中河内地域に位置する中核市です。人口は約50万人で、大阪市および堺市の両政令指定都市に次ぐ府内第3位の人口を擁する大阪都市圏の中心都市です。

この防災学習センターは、南海トラフ巨大地震などの各種災害に対応するため、市民の防災に関する学習・体験をさせる施設として平成20年に建設された。防災に関する知識や取り組みの必要性、重要性について学習するために、様々なコーナーが設けられています。消防局・中消防署と同じ建物の3階4階にあり、4階は「防災学習ゾーン」、3階は「防災体験ゾーン」が設けられていました。

【視察を通して江津市の防災を考える】

この施設の利用としては、小学校の防災教育授業の一貫地としての利用が最も多いよ

うで、4階の「防災学習ゾーン」には、各種展示コーナーがありました

中でも、阪神大震災時の下町の被災現場の復元コーナーは印象的でした。悲惨な体験を伝えていくとともに、今後、必ず起こると想定される南海トラフ巨大地震に備える危機意識の強さを痛感しました。

このことから江津市の防災について考えますと、市内の各コミュニティで取り組む自主防災組織も緒に就いたばかりで、避難訓練も十分に実施されておられない現状も見ますと、学校・企業・コミュニティ等での防災学習の必要性を急がなければと感じました。

また、地域性であるのでしょうか。消防団に対する位置づけが高く、消防団による防災活動が活発に展開されているとお聞きしました。江津市でも消防団の果たす役割には大きなものがあります。消防団員の皆様に対する市民の期待と思いやりが大切と考えます。

2、福井県敦賀市・「学力向上の取り組みについて」

敦賀市（つるがし）は、福井県南西部（嶺南地方）の敦賀湾に面する人口 65,485 人の市です。原子力発電所が多く立地する都市、昆布の加工地として知られています。

教育に関しては、平成19年の「全国学力・学習状況調査」においては、成績結果は低い状況にありましたが、その後福井県教育委員会の指導の下、敦賀市独自の教育に粘り強く取り組み、最近では全国のトップクラスにある福井県の中でも、常に上位の成績を収めています。

◎敦賀市立栗野小学校

この度は、先に敦賀市教育委員会の説明等を聴くことなく、直接敦賀市立栗野小学校の視察を行いました。敦賀市の教育についての知識のないまま学校視察は学校現場を直視することができ、このことは、初対面の校長先生に対する質問が各委員から自然発生的に起こり、教育談議に花が咲いたことが証明しています

授業参観は、業間体育と3時間目の普通授業を教頭先生の案内で行いました。

業間体育は、1年生から6年生までの縦割りグループで実施されており、6年生のリーダーの指導で楽しそうに行われており、それぞれの生徒が積極的に取り組んでいました。また、それを見守る若い先生方の姿が印象的でした。

3限目は、それぞれのクラスに帰っての、算数や国語等の授業が行われ、楽しかった業間体育の雰囲気を引きずることなくしっかり切り替えができているのには感心しました。国語の授業では、積極的に挙手する生徒が多く、前に出た意見発表も元気よく行っていました。

校長先生との話し合いからは、福井県や敦賀市の教育方針が徹底されていることが伺われ、そして、それぞれの小学校のスクールプランの重点目標・具体的な取り組み・成果指標に沿って、学校経営が積極的・意欲的に展開されておりました。

◎敦賀市教育委員会「敦賀市教育の取り組みについて」

午後は、会場を市役所に移し、敦賀市の教育の取り組みについて説明を聞き、質疑応答を行いました。上野弘教育長様のご挨拶の後、3名の指導主事の先生方から「敦賀市の教育」について説明を受けました。

説明によりますと、学力向上の取り組みについては、【方策1】小中一貫教育における中学校校区ごとの弱点補強として、平成28年度から中学校校区ごとの教員の小中一貫研修会に取り組んでいる。【方策2】課題の抽出と補強教材の作成を「全国学力・学習状況調査」「市総合学力調査」「福井県学力調査」の結果を基に、課題克服（弱点補強のため）（小中一貫のため）のための敦賀市独自のカリキュラムの作成と実践委取り組んでいます。この作成に当たっては、40代を中心とした教科指導員・研究員約47名のメンバーがスピード感をもって意欲的に地理組んでいます。【方策3】一人ひとりの学びを保障する「丁寧な教育」が実践されていました。授業改善・放課後補充による弱点の補強。7月の教育懇談（三者面談）10月の教育懇談により調査個票配布や学習・生活の評価を行い、情報提供と学習支援の徹底を図っていました。【方策4】敦賀市「知・徳・体」充実プランにより、【無駄な重なり】を無くした0歳から15歳までの教育に繋がりを作っています。

家庭学習の推進については、「家庭学習ガイド」の活用で、自ら学ぶ子の育成に努めています。「0歳から15歳まで」の謳い文句が示す通り、幼稚園保育園から小学校へのつながりのため「さいしょのいっぽ」のパンフレットにより、小学校低学年用の「学習ガイド」へのスムーズなステップアップを図り家庭学習習慣の育成に努めていました。アンケート結果によりますと、中学校3年生の過去4年間の回答結果からも家庭学習の取り組み時間が増加が見られ、着実な向上が見られています。

【視察を通して江津市の教育を考える】

この敦賀市の教育視察を通して、痛感したことは、子ども達の将来を考え自らの力で生きていくための力を育んでいこうとする、子ども達を取り囲む大人たちの熱い厚い思いと情熱、そして、実践力には感服しました。

最近、江津市の小学生もスマートフォンを所持する生徒も増加し、ユーチューブのおもしろ動画などに関心を持つ児童や相変わらずゲームに興じて児童を目にします。このこと自体、次世代を生きるツールとして必要であり、悪いことではありませんが。敦賀市では中学生が、この機器の使用ルールを決め有効活用をしているようです。また最近のお話では、中学校において、試験期間中はスマートフォンを担任の先生に預けることが始まり、所持者のほぼ100%が実行しているとお聞きしました。

次に、40代を中心とした教員のスピード感を持った実行力が敦賀市の教育を大きく支えていることを実感させられました。

今、江津の教育で為すべきことは、教育力向上のための具体的対策を打ち出し、それを実践するのみです。

今後、この視察で学んだことを、江津市で学ぶ子供たちのために、大いに活かしていこうと思います。

平成29年総務文教委員会行政視察報告

総務文教委員会副委員長 土井 正 人

・10月11日 東大阪消防局 防災学習センター

50万都市ながら面積は6万k㎡と市の高台からは全市が一望できるような都市で、かつて阪神淡路大震災の経験もあり防災意識は高いと思われる。

防災学習センターは消防局の中、3、4階に設置されており体験型の施設でなかなか充実している。特に煙避難体験コーナーははじめての体験であったがこれは優れものであった。地震体験コーナーも体験車両とは比較にならない程のもので、それぞれ過去の地震の振動をコンピューターでシュミレーションして、全く身動きのとれない状況を実感した。

職員の方の対応も親切であり、このような施設が本市にあり体験学習の場として提供できるならば素晴らしいと思う。それ程多くの資金も要しないと思われるので、例えば水の国などを改修し、最新の設備を導入し、開放すれば防災に対する意識の向上が図られ市内外からの人々を呼び込める施設になるのではないか。

・10月12日 敦賀市 学力向上について

午前中は学校訪問で市立栗野小学校を視察。児童550人規模の学校で大きな学校であるが、校舎は相当古く補強や増設で補っているようで全てが手狭な感があった。

授業は縦割りの時間帯で全学年がそれぞれ班別に工夫をしてのゲーム等を楽しんでいる様子はどこも同じであるが、その姿から次の授業への切り替えが全てのクラスで全く動揺することなくスムーズに行われている姿は、良く指導がなされていると感じた。

午後は教育委員会担当者よりパワーポイントでの市の現況の説明、特に学力向上への取り組みとして、小中一貫教育の取り組みがなされ中学校区内での一貫研修会、課題克服における独自のカリキュラムの作成と実践に取り組んでいる。教科指導研究員（総勢47人）により学校の枠を外した小中の教育研究会や教科別の部会により教員間の意志統一を図っている。夏休み中における個別の学習を3～5日間実施し、学力向上、学力アップを行うなど取り組みの姿勢が主体的であると感じた。

特に家庭学習のガイドの作成により、家庭での学習の取り組みに筋立ができ、家庭での取り組みがスムーズに行える仕組みづくりは多いに参考になるのではないか。市独自の教育の実践が行われている。

敦賀市教育長が終始同席し対応し、担当者がそれぞれ主体的に説明に当たり現場の実情を理解している様子（共通理解）がうかがえる。いずれにしてもリーダーたる教育長の敦賀の子どもたちをどう育むか本気度が現れているのではないか。教育長、教育委員会のリーダーシップが重要と痛感した。説明を担当する職員一人ひとりの自信と自負が感じられ、ここから始まっているのではないだろうか。

江津をなんととしても今の現状から脱皮したい。教育長、教育委員会の本気度が試されている。

平成29年度 総務文教委員会 行政視察報告書

総務文教委員 鍛治恵巳子

日程：平成29年10月11、12日

- ① 大阪府東大阪市⇒防災学習について
- ② 福井県敦賀市⇒学力向上の取り組みについて

(1日目)

・防災学習についてということで、東大阪市の防災学習センターにお邪魔した。

防災学習センターは、平成20年5月オープンということでまもなく10年を迎える施設で、平成24年リニューアル時には、地震体験コーナーや防災体験シアター等、設備も更新されて、昨年夏には来館者7万人を突破した。

展示コーナー前で説明を受けています。



・ホールにて防災のためのDVDを視聴後、防災体験シアター・二次災害防止体験・煙避難体験・初期消火体験・地震体験などを実際に委員会メンバーで体験した。・避難用具非常食などは賞味期限が切れてしまうこともあるので、こまめに点検が必要で、3日分の水と食べ物を準備し、救助に備えることや、2次災害予防体験では、火を止める、窓をあけて避難路を作るなど、模擬体験でもドキドキしながら体験した。煙の避難も安全な煙で大丈夫とわかっているけど、狭いところが怖い私にとっては、パニック寸前とっていいほど、恐ろしいものだった。(本当に)私も過去の一般質問で、防災について質問をしたことがあるが、今職場・学校などで避難訓練を行っても、ここで体験したようなことは出来ないと思う。そうかといって施設を作ることも容易でもない。やはり、訓練と自身で自分の命を守る自覚こそが必要である。本市は豪災害などの災害は過去にありますが、それでもまだ災害に対する意識は低く実際の災害が起きたときにはパニックになり、何が起るのか、どうしていいかもわからないと思う。

東大阪市では、11月11日に花園中央公園で全市をあげての大規模な避難訓練が行なわれる。内容は、救出救助訓練、避難所設営訓練、炊き出し訓練、ライフライン復旧訓練など。本市においても、なにも起こらないにこしたことはないが、災害は本当に怖いものだという意識を持ってもらうための訓練は、絶対に必要であると強く感じた。



←一瞬で目隠しが消える 救急指令室

(2日目)

- ・ 福井県敦賀市 学力向上の取り組みについて
- ・ 実際に栗野小学校の授業を見学させていただき、その後市役所で教育委員会の取り組みについて伺った。
- ・ 栗野小学校の印象はとにかく、子供が元気、眠そう、だるそうといった子供は見受けられず、手を挙げての発言、椅子をきちんと持ち上げて後ろに下げるという所作、人数が多い中でまとまっている様子だった。
- ・ 子供に密着した教育、職員朝礼を毎日から週に1回に減らし、朝の読書の時も先生が生徒に寄り添う時間を作りだしているようだ。
- ・ PTA 活動が活発で、学校要覧にはPTAの役員の名前が書かれている。地元との交流の仕方などは、本市と共通するところもあると感じた。
- ・ 学習塾には4割くらいの子供がいているということ、秋田県の視察とはまた違い、必ずしも、学校、地域性だけが成績に影響しているわけではないと感じた。
- ・ PTAが熱心で学校とPTA(親)との連携がとれていること、ルールの共有がしっかり出来ているようだ。子どもの夢はやはりユーチューバーが入っており、どこの子供もスマホ、タブレットなどの影響を受けているのだなあと感じた。



👉 体育館での業間の様子

♪思わず入りたくなる図書室入口♪



学校全体は改修を繰り返したような施設だが、こんな工夫で学校での読書を楽しいものになっているようだ。

【敦賀市市役所】

- ・教育委員会教育長から話をきいた。教員の努力、研鑽もありますが、保護者からの意見「家庭教育をどうしたらいいのか」という意見から、それを独自ですこやか敦賀っこ**家庭学習ガイド**を、小（低学年）（中学年）（高学年）、中学生用と作られていた。どこの地域も課題は、学力の底上げであり、それをするには学校だけではなく、家庭学習が必須である。なので、いわゆる自学といわれるものを、何をしたらいいのかと思う子供や親は少なくないと思うので、このガイドを作られたことは素晴らしいことだと感じた。
- ・小中の連携、一貫教育による弱点の補強など、0歳から15歳までの教育に「学びのつながり」という取り組みが挙げられているが、15年間を通した弱点補強は簡単そうではなかなかできないことだが、それも出来ているのであろうと思われた。小学校に上がるまえ、中学校に上がるまえに、それぞれがスムーズにいくよう、先生方の努力が見られる。
- ・生徒会の子供たちが集まってSNSのルールをきめ、テスト期間オールオフ。
- ・私は、学校だけでは子供たちのやる気、頑張ろうという気力は育てることはできないと思うので、親、家庭の役割、地域の役割もあると思う。敦賀市のような活発なPTA活動であったり、地域の方との繋がる場づくりであったりが大切だと思う。私としては、江津の子供はダメだダメだという空気を早く脱却するよう、難しいとも思うが、子供の成長はあっという間。敦賀市のような学力底上げガイド（家庭学習のすすめ）のような市独自の対策が本市にも必要と感じた。

総務文教委員会での行政視察についての報告

委員 多田伸治

10月11・12日に大阪府東大阪市と福井県敦賀市を視察しました。

☆大阪府東大阪市 防災学習センター

東大阪市は大阪府中部で奈良県に接する、人口約50万人の中核市です。

東大阪市では、2008年に消防局中消防署に防災学習センターを併設。南海トラフ巨大地震をはじめとした災害に対応するため、市民が防災について学習・体験する場を設けています。

防災学習センターは市民に無料で開放されており、防災意識を啓発する動画の上映や、実際に火災・地震が起こった状況を体験できるコーナーがありました。

▼視察後の所感

施設としては「近隣にあれば小学校の遠足などで、楽しみながら防災の勉強ができる」とは感じましたが、「江津市に不可欠なもの」とは言えるものではありませんでした。江津市での取り組みとしては、施設ありきではなく、防災意識へ働きかけることに重点を置く必要があります。

☆福井県敦賀市 学力向上の取り組み

敦賀市は福井県の中央に位置する日本海に面した人口約6万6500人の都市です。

文部科学省では2007年から全国学力テスト（全国学力・学習状況調査）を実施しています。このテストで福井県の成績は全国平均を上回っており、都道府県での順位では連続して上位を占めています。そして、その福井県のなかでも敦賀市は好成績となっていることから、総務文教委員会では敦賀市の「学力向上の取り組み」を視察することとなりました。

敦賀市は、福井県による「福井型18年教育」「ていねいな教育」「きたえる教育」との教育方針に従って、2016年に『知・徳・体』充実プラン」「教育振興基本計画」を策定。各小中学校では、その敦賀市の計画に沿って「スクールプラン」をつくり、子どもたちへの教育にあたっています。なお、スクールプランについては保護者への周知を徹底しています。

敦賀市では、全市的な小中一貫教育を推進しており、そのための支援員を配置。小学校から中学校へ進学した際、学校生活や授業の変化から生じることのある「中1ギャップ」へ対処するとともに、小学校と中学校の教員が、お互いの授業を把握し、小学校で習うことの延長線上にある中学校での学習を意識した教育を実施しています。

一方で、家庭での学習については、市で学年に応じた「家庭学習ガイド」を作成。家庭

学習の習慣化と学力の向上を具体的にサポートしています。

福井県では、県独自に小学校全学年での35人学級を実現（国の基準では1・2年生は35人学級で3年生以上は40人学級）。中学校では1年生が30人学級、2・3年生でも32人学級となっています（国の基準では全学年40人学級）。さらに、低学年には非常勤ではあるものの生活支援員を配置し、教員2人の体制で授業ができる環境をつくっています。

また、クラスの全員が理解できるまで繰り返す反復学習や、放課後での補修・夏休みでの個別学習会などを実施。学習についていけない子どもを出さないための取り組みも充実させています。ただ、そのためには通常よりも多くの時間を要するため、現場レベルで効率的な授業や無駄な業務を省くことにも腐心しています。

▼視察後の所感

敦賀市での教育への取り組みは、積極的と言えるものでした。しかし、必ずしも特別な教育というわけではなく、取り組みとしては福井県が実施している少人数学級や教員2人体制の方が、効果が高いのではないかと感じました。ただ、こういった体制づくりには、県による教員の配置が大きく関わるため、市単独ではできません。今後、江津市が教育の充実を図るなら、島根県へ教員の拡充を求めることが必須となります。

なお、大前提として小中学校での教育は義務教育であり、学力テストの成績に一喜一憂するのではなく、どの子どもにも必要な基礎学力をつける教育、子どもたちが学ぶことに興味・喜びを抱ける教育に、重点を置かなければならなりません。

平成29年度総務文教委員会行政視察報告

総務文教委員会 森脇 悦朗

1.視察先 大阪府東大阪市 東大阪消防局防災学習センター

【日 時】 平成29年10月11日(水) 13:10~15:00

【視察内容】

- ・防災学習について

【視察概要】

東大阪市消防局防災学習センターは、南海トラフ巨大地震などの各種災害に対応するため、市民の皆さんに防災に関する学習・体験をしていただく施設として平成20年に誕生した。最初に東大阪市の紹介ビデオと展示品見学を行い、防災体験ゾーンで実際に体験をした。防災体験シアターでは、火災・水害・地震災害について3Dにより分かり易く説明を受けた後、二次災害防止体験室においてクイズ形式で実際に対応をした。



その他煙避難体験、初期消火体験、被災地体験を行った後、東日本大地震など実際に起きた地震を装置に乗って体験した。最後に通信指令室を見学。

【所感】

これまで、地域のコミュニティや消防活動により地震体験車、初期消火体験煙避難体験に参加したことはあったが、県の所有するものを持ってくる必要があり、めったに体験することができないのが現状である。こうした体験する箇所が身近にあれば防災意識も向上し、いざという時にあわてないで行動できると感じた。県内に最低でも2箇所こうした施設を設置し、幼児から高齢者までそれぞれの世代にあった防災学習を行うことで、県民・市民の安心、安全を醸成する必要があると感じた。

2.視察先 福井県敦賀市

【日 時】 平成29年10月12日(木) 10:00~15:00

【視察内容】

- ・学力向上の取り組みについて

【視察概要】

午前中は、児童数 550 人の栗野小学校にお邪魔し、校長先生からスクールプランの取り組み状況の説明を受けた。その後、質疑応答において、学力向上に向けての独自の取り組みがあるかと伺ったところ、小学校の授業は学力向上が目的ではなく、授業力を上げることで基礎学力、応用力を養っていくとのことであった。



また、小中連携も進めており、不登校児童が減少しているといった話や、低学年には支援員を配置してもらっているが、人数により配置できない場合もあり、市や県に要望しているとの話もあった。質疑後、実際にたて割り班による活動と授業風景を見学した。

午後から市役所において、教育長の出席もいただき敦賀市の教育についてスライドにより説明をしていただき質疑応答を行った。その中で、先生によって授業の進め方に差が出るのではと伺ったところ、40 歳代の熱心な先生による研修や授業研究などを実施し対応しているとのことであった。また、児童生徒の質問紙の結果から「規範意識」の向上が見られるようになったことから、この結果が学力向上につながったのではと後に対して、まさにその通りで、中学生が自らスマートホンやゲームの時間を削減するような取り組みをするようになったと回答を得た。

【所感】

栗野小学校でのたて割り班による活動は、大規模校であっても上級生と下級生が分け隔てなく楽しくゲームや大縄跳びを行っていて、きちんと統制がとれている印象を持った。その後の授業では、まじめに授業を受ける姿にメリハリの利いた好印象の小学校であった。

敦賀市教育委員会の学力向上に向けた取り組みの中で印象的であったのは、家庭・学校・地域で育てるための「知・徳・体」充実プランがきめ細やかに設定されており、特にふるさと先人から生きる力を学ぶ道徳に力を入れることで、まじめに実直に取り組むことのできる児童生徒が育っていると感じた。また、父兄から出た悩みに応えて作成された「家庭学習ガイド」の活用により、低学年から自ら学ぶ子の育成ができていることで学力向上につながっていることと、県によるさまざまな支援策があり、ただ単に学力向上を目的としたものではなく、一人ひとりの学びを保障するていねいな教育の実践ができていることが分かった。

本市においては、学力テストの結果が悪いことからテスト対策になるような取り組みになってしまいがちではあるが、勉強して考える力をつける取り組みとともに、内面を豊かにする力とたくましく生きる力を育てる教育の実践が必要であることを、改めて認識した視察であった。

平成29年度総務文教委員会行政視察報告

委員 島田 修二

日程：平成29年10月11～12日

① 防災学習について 大阪府東大阪市

・東大阪市消防局防災学習センター

*平成20年に巨大地震などの各種災害に対応するため、市民が防災に関する学習や体験をするための施設として東大阪市消防局の3階と4階に整備されていた。3階は、防災体験ゾーンで「体験シアター・二次災害防止体験コーナー・煙避難体験コーナー・初期消火体験コーナーなど」防災の基礎知識について、空間全体で体験しながら学習できる。4階は、防災学習ゾーンで防災の基礎知識を、グラフィックやQ&Aなどを用いて分かりやすく学習できる施設であった。

【感想】人口約50万人の自治体だからこのような施設整備が出来るのであろうが、本市ではどうなのかとは思われる。このような施設については島根県全体で整備を進めていくのが最善では？

「県立防災学習センター」の整備を県中央部の江津市に整備したら。例えば、アクアスに隣接して、県内小中高等学校の遠足に合わせ、防災学習と水族館のコラボで江津市の交流人口の増とアクアス来場者増を計画しては。

② 学力向上の取り組みについて 福井県敦賀市

・敦賀市立栗野小学校

・敦賀市教育委員会

*栗野小学校は全校生徒550名で市内の中では大規模校である。学校要覧、スクールプランの説明を受け授業参観をさせて頂いた。

次に、敦賀市役所に移動後、教育委員会より教育方針である「敦賀市(知・徳・体)充実プラン」について説明を受けた。

【感想】授業の合間の「業間活動」と言うのがあり、縦割り班により様々な活動が行われていた。校舎には、あちらこちらから歓声が聞こえ学校中に何とも言えない楽しい空気が満ちていた。子供たちを見れば、上級生が上手に下級生をリードしている。またその中でちゃんとリーダーが育っているのを感じさせられた。業間活動の中で子供たちは自然と「人として」を学んでいるのではと感じた。

平成29年度総務文教委員会行政視察報告

委員 藤田 厚

下記日程にて行政視察を行いましたので報告いたします。

☆日程 平成29年10月11日(水)～10月12日(木)

☆視察先 ①大阪府東大阪②福井県敦賀市

★主な目的

東大阪では、防災学習センターにて大地震や、台風・洪水に襲われたら・・・火災が起きたら・・・倒れている人を見つけたら・・・どの様な行動をとるか?など学習体験をできるので視察を行いました。敦賀市では学力向上の取組みについて視察研修を行い今後の議会活動に活かす。

1. 東大阪市

【内 容】

東大阪市は大阪府の中部で奈良県に隣接し人口約50万人の中核都市です。東大阪市消防局の防災センターは、近鉄線若江岩田駅にあり花園ラグビー場の近くでもあります。

東大阪市では、2008年に消防局中消防署に防災学習センターを併設。

東南海・南海地震が明日、いえ、今日起こるかも知れません。また、地震以外でも台風や洪水、火災などの災害は場所や時間を選びません。災害が起こってしまった時の準備や心構えが、あなたの命を守ります。避難方法、消火器の使い方、応急処置の方法、家族や近隣の人との助け合いなど、このセンターで災害に対応するため、市民が防災について学習・体験する場を設けています。

防災学習センターは市民に無料で開放されており、防災意識を啓発する動画の上映や、実際に火災や地震が起こった状況を体験できるコーナーなどがあり、幼児から大人まで体験されているそうです。





●まとめ

江津市に必要不可欠とは感じませんが防災について学習する点は良いと感じました。

2. 敦賀市

【内容】

敦賀市は福井県の中央部に位置する日本海に面した人口約 6 万 6500 人の都市です。敦賀教育委員会では学力の向上に取り組んでいます。

福井県は秋田県に次いで全国学力調査で学力上位に入る県です。

そして、敦賀市は福井県のその名に恥じない成果を上げている市です。

敦賀市は、福井県による『福井型 18 年教育』『ていねいな教育』『きたえる教育』との教育方針に従って、平成 28 年に「敦賀市『知・徳・体』充実プラン」「教育振興基本計画」を策定して、平成 32 年度までの 5 年間を通して、子どもたちに「勉強して考える力」「内面を豊かにする力」「たくましく生きる力」が身に付くよう全市的に小中一貫教育を進めており、各小中学校では、その敦賀市の計画に沿って「スクールプラン」をつくり、子どもたちへの教育にあたっています。

なお、スクールプランについては保護者への周知は徹底しているとのこと。

全市的な小中一貫教育を推進しており、そのための支援員を配置。小学校から中学校へ進学した際、学校生活や授業の変化から生じることのある『中 1 ギャップ』へ対処するとともに、小中学校の教員がお互いの授業を把握して、小学校で習うことの延長線上にある中学校での学びを意識した教育をされています。

また、一方で、学びの連携、接続ということで幼児教育と小学校教育の連携、接続について家庭学習では、市で幼児(年長)・学年に応じた「家庭学習ガイド 入門編」・「家庭学習ガイド」を作成し家庭学習の習慣化と学力の向上を具体的にサポートしています。



●まとめ

敦賀市では学びの連携・接続ということで幼児教育と小学校教育の連携・接続、小学校と中学校教育の連携・接続ということで市内の保育園、幼稚園と 13 校ある小学校が漏れなく連携をとって学力の向上に取り組んでいます。

更に、全ての小学校と 5 校ある中学校が漏れなく連携し同じ取組みを市ぐるみで行っています。この取組みは本市でも学必要があると感じます。

学力の向上はすすぐ成果が表れるものではありませんが、早く取組むべきと考えます。